

要旨

青森県では健康づくりに関する活動を行っているが、未だに短命県脱出には至っていない。住民一人ひとりにこの活動の効果が行き届いていないことを示している。

短寿命に関する先行研究では、死因分析から直接的な要因を探るといった医学的な面からのアプローチが多い。多くの健康づくり活動もこれに依拠しており、青森県の健康づくり活動も同様のアプローチである。青森県の現状は、このアプローチ方法の限界を示しているといえる。

一方で、ヘルスケアよりも社会経済面の水準が健康水準に大きく影響を与えるといった報告もされている。しかし、この社会経済面の水準向上を健康水準の向上に結びつける具体的な健康づくりの活動事例は見当たらない。

そこで、本研究では長寿を誇る長野県の健康づくりのモデル地域である長野県佐久地方での活動を調査研究し、青森県津軽地方との比較結果を踏まえ、社会経済面に着目した健康づくり活動の仕組みを提案する。一例として、社会経済面で課題が山積する青森県の主力農産物「りんご」の生産者への適応を取り上げる。